

理事会議事録

日時：2001年10月6日(土) 12時00分～13時20分

場所：イーグレひめじ4階会議室

出席者： 田原、松田、郷田、大石、松原、立松、大橋、上野、茂山、
加藤、松元、黒田、山内、吉田 以上14名

欠席者： 唐牛 以上1名

有効委任状提出者：唐牛 以上1名

他に、東條事務長が参加した。

議事に先立ち、署名人を選出した。

議長：田原博人
署名人：大石雅寿、郷田直輝

報告

1. 前回(2001年7月7日)の理事会議事録が郷田庶務理事より報告され、承認された。

2. 学術用語集増刷に関して

大石庶務理事より、学術用語集増刷に関して、前回の理事会以降の経緯について以下のような説明があった。前回の理事会での承認事項に従い、文部科学省研究振興局学術研究助成課の担当者と交渉を行った。また、理事長名で文科省に担当部会に修正案を出したい旨の要望書を出した。それに対して、修正のためには、科学技術・学術審議会用語担当部会での審議が必要との回答があった、それに対して担当部会を立ち上げる目処を回答するようにと要求中である。

3. その他

(1)内地留学奨学生選考委員会からの選考結果について

西村内地留学奨学生選考委員会委員長からの2001年度内地留学奨学金の選考結果が、郷田庶務理事より代理で報告された。報告内容は、研究計画、奨学金の使途に関して詳細に吟味、議論した結果、応募者3名全員について支給することとなったという旨のものであった。

(2)2002年春季年会について

吉田年会開催地理事より、2002年春季年会に関する準備状況に関して、次のような報告があった。記者会見は、3月27日、年会発表は、3月28日から30日、公開講演会は、3月31日に茨城県立図書館にて開かれる予定。公開講演会は、「宇宙の歴史」というテーマで行う。講演者は、現在交渉中である。さらに、学会開催時に合わせて、茨城大学主催で、水戸市総合教育研究所が持つ水戸市移動天文台車「ミレニアムスター」を利用して、天体観測を行う予定である。ホテルの確保は、日本旅行水戸支店に依頼した。以上の報告に対して、公開講演者の選択、講演時間、パラレルセッション数、ポスター発表数、特別セッションなどに関して意見交換を行った。

(3)2004年秋季以降の年会について

2004年秋季年会に関して、国立天文台(水沢)との交渉経緯について郷田庶務理事より次のような報告があった。当初会場数の都合で水沢で開くことはかなり困難であるとのことであったが、国立天文台(水沢)としては是非引き受けたいとの要望もあり、現在、開催地を岩手大学でできないかということで調整している。

また、2005年以降の年会開催地として、北海道大学工学部で引き受けたいとの要望がきている旨、郷田庶務理事より報告があった。2005年秋季年会ということで、今後調整したいとの郷田庶務理事の発言があった。

(4)平成14年度科学研究費補助金研究成果公開促進費への申請に関して

平成14年に開催予定の天文学会共催であるIAUアジア太平洋地域会議経費のため、平成14年度科研費研究成果公開促進費「研究成果公开发表(C)」に天文学会より申請する予定との報告が、郷田庶務理事よりあった。また、天文学会公開講演会のために、「研究成果公开发表(B)」に申請予定と加藤教育理事からの報告もあった。

(5)IAUアジア太平洋地域会議について

IAUアジア太平洋地域会議LOCでもある上野天文月報理事より、平成14年に開催予定のIAUアジア太平洋地域会議についての準備状況、早期登録は3月末までであること等の報告があった。

議題

1. 新入会員の承認

郷田庶務理事より、新入会員申込者リストの説明が資料を基にあった。議論ののち、正会員として6名、準会員として2名の入会、および準会員から正会員への移籍1名を承認した。

2. 2001年秋季年会について

茂山年会理事より、2001年秋季年会について以下のような報告があった。10月3日に開催された記者会見では3件の発表が行われた。また、参加報道機関は8社であった。会見内容に関して多くの報道が行われた事を確認している。口頭講演は、307件、ポスター講演は218件、講演キャンセルは3件あった。さらに年会に関して本理事会開催時点までの全体の年会登録者は732名、ジュニアセッションのみの登録者は12名であった。懇親会参加者は、350名で大盛況であった。さらに、液晶プロジェクタ使用が増加し、そのため生じた問題もあり、今後の検討が必要との茂山理事の問題提起があり、意見交換を行った。

また、加藤教育理事（年会実行委員保育室担当）より、保育室の利用は3家族4名であり、無事終了したことが報告された。

3. 財政改革案に関して

松原会計理事より、学会財政の動向についての状況説明や9月15日に行われた実務理事会での議論、またさらに電子メールで行った持ち回り理事会での議論についての説明があった。学会の予算は長期的な赤字傾向にあり、運用上の努力や抜本的な改革が早急に必要である。その中で、理事会として検討すべき改革方針について特に説明が行われ、意見交換を行った。また、今後、実務理事会を開いて具体案の検討を行い、できれば次回の理事会と評議員会で決定して、早急に実現を目指すこととなった。

4. その他

(1)2002年秋季年会について

山内年会開催地理事より、2002年秋季年会における天文教育フォーラムの日程が日曜日だったが、年会講演期間中に移すことは可能であるとの説明があった。議論ののち、年会講演期間中に移すこととし、詳細な日時は年会実行委員会で決定してもらうこととした。

また、JTBに事前の参加登録作業をお願いしているが、天文学会のホームページに、JTBの登録ページをリンクすることは可能かとの質問が山内理事よりあった。議論ののち、短期間でもあるし、特に問題はないとして、この件は可能ということで承認した。

(2)理事会開催通知等について

事務の迅速化および通信経費の削減のため、理事会の開催通知を電子メールで行いたい旨の提案が郷田庶務理事よりあった。議論ののち、開催通知は電子メールで行ってもよいことを承認した。またさらに、評議員会での了承事項と同様に出欠の返答も電子メールで可能とし、委任状に関しては、自筆のものをファックスで送付することで書面による返答とみなすことを了承した。

(3)宇宙3機関の統合に関する要望書について

宇宙3機関（宇宙開発事業団、航空宇宙技術研究所、宇宙科学研究所）の統合に関して、統合後もこれまで宇宙研が果たしてきた共同利用機関としての役割、大学院教育等は新機関においても適切に保持さ

れ、日本のスペースサイエンスの発展につながるようなものにしないでほしいことを強く訴えて行く必要性を持ち回り理事会(平成13年9月20日～9月27日)で確認し、その旨を記した要望書を文部科学大臣宛に提出することも持ち回り理事会で決定したが、さらに10月5日に開かれた評議員会でも要望書を提出することが決定したことが田原理事長より報告された。これに対して要望書の文面の詳細および文部科学省への提出方法等については、理事長、庶務理事で今後検討して実行するので任せてほしいとの田原理事長からの要望があり、議論ののち、承認した。

(4)総会のあり方について

田原理事長より、総会のあり方、運営方法について、昨日の総会で出された意見をもとに、今後理事会でも検討したいとの提案があり、了承した。

(5)次回理事会の予定について

次回理事会の予定を以下のように決定した。

2002年1月12日(土)

2001年 11月6日

議長	田原博人	印
署名人	大石雅寿	印
署名人	郷田直輝	印

[天文学会ホームページに戻る](#)